校長室だより～燦燦～ №６０６

テニスの神様

2022.8.17

ソフトテニス（軟式テニス・軟式庭球）の世界には「テニスの神様」と呼ばれる人物がいる。この競技は、昭和から平成にかけて軟式庭球から軟式テニスそしてソフトテニスと変化してきた。ルールも何度か大きく変更されてきた。

この間、コンスタントに平成１０年まで２４年連続で全国中学校体育大会（全中）に出場し続けてきた学校がある。西郷村立西郷第一中学校である。優勝８回、準優勝６回を誇る。現在でも、毎年のように全中に出場している強豪校であり、伝統校である。ソフトテニスといえば西郷一中という存在である。

西郷一中ソフトテニス部をここまでの存在にしたのは、金沢知彦先生である。この方が、テニスの神様である。

７月２３日（土）・２４日（日）に県大会があった。そこで、久しぶりに西郷一中の関係者とお会いし、昔話に花が咲いた。西郷一中の白いウェアを見ると、金沢先生を思い出す。どの学校もカラフルなウェアに身を包んでいる中で、柄なしの白いウェアは、かえって際立つ。白は西郷一中の色であり、金沢先生の教えでもある。

金沢先生の年齢を計算してみた。１００歳になっているはずである。西郷一中の方に聞いてみた。ご存命だった。よかった。９９歳のお祝いをして、１００歳のお祝いをしようと計画していたが、コロナのためできないままだということだった。現在１０１歳である。

金沢先生は、常々テニスコートで死にたいとおっしゃっていた。８０歳ぐらいまで西郷一中の指導をなさっていた。その後も毎日テニスコートに先生のお姿があった。シニアの方々とプレーをしていた。９７歳までテニスコートに行っていたとのことである。ソフトテニス界の巨星である。

私が初めて金沢先生にお会いしたのは、中学３年生の５月である。西郷一中に練習試合に連れて行ってもらった。テニスコートに、上下真っ白、帽子も白のおじいさんが立っていた。その頃は、まだ金沢先生は神様ではなかった。全中で優勝するようになるのは、この２年後からである。だが、すでに強かった。県では優勝していた。

金沢先生が指導していた全盛期の西郷一中は、負けそうになっても負けなかった。ベンチで金沢先生は大きな声を出すわけでもなく、泰然自若の佇まいだった。それが、相手校の監督からすると嫌だった。特に、金沢先生のことを知っている監督は、勝手にいらぬことを考えてしまう。過剰に意識してしまうのである。

現在の西郷一中は、金沢先生の教え子の皆さんが、保護者やＯＢ・ＯＧとして指導にあたっている。白いウェアだけでなく、“金沢イズム”は脈々と継承されている。福島県中学校のソフトテニスのレベルが高いのは、西郷一中のお陰であり、金沢先生の教えの賜物である。

目の前に目指すべき存在があるのは大きい。県内の中学校が、西郷一中とは違ったスタイルで西郷一中を倒そうと切磋琢磨する。その結果、福島県のレベルは上がる。福島県には、テニスの神様がいる。この神様の教えは、これからも受け継いでいきたい。